

				科目コード	110
科目名	周産期ハイリスクケア論 (High Risk Perinatal Care)			選択区分	必修
単位数	1単位	時間数	30時間	学期	通年
担当教員	今村 朋子、井上 明子、伊藤 美香、山本 美由紀、 枝川 千鶴子、松田 修*、越野 和美*			区分	助産学実践領域
授業概要	マタニティサイクル各期の身体的、心理社会的なハイリスク状態にある母子や家族の診断および援助について教授する。より実践的な知識・技術の習得を目指し、技術演習、事例展開、シミュレーション、臨床推論などの様々な学習方法により授業を展開する。				
授業目標	1. 分娩期の異常やハイリスク妊婦に対する標準的な助産計画を立案し、診断・技術演習で活用できる。 2. 周産期のハイリスク状態にある母子の病態生理に基づいた助産過程が展開できる。 3. ハイリスク状態にある対象者をマタニティサイクル各期の一連の流れの中で理解し、対象がその人らしく、より良い健康状態に向けて過ごすための援助について考えることができる。				

授業内容

回	項目	内容	担当者
1	分娩期の異常に対するケア(1)	分娩に伴う様々な処置、急速遂娩	伊藤・井上
2		分娩期の正常逸脱事例シミュレーション：前期破水	今村・井上
3	心理社会的ハイリスク妊産婦と家族のケア	若年妊娠、未婚女性、虐待、産後うつ	井上明子
4	ハイリスク妊婦のケア	ハイリスク妊娠と助産師の役割、施設連携と周産期医療システム、異常徴候の早期発見に向けたリスク査定	今村朋子
5		【ハイリスク事例演習①】事例A:妊娠糖尿病	伊藤美香
6		【ハイリスク事例演習②】事例B:妊娠高血圧症候群	井上明子
7		【ハイリスク事例演習③】事例C:双胎・切迫早産	
8	分娩期の異常に対するケア(2)	帝王切開のケア	山本美由紀
9		産科出血の予防と対応	
10	ハイリスク妊産褥婦まとめ	臨床推論：ハイリスク事例の分娩時の緊急対応 【実践演習】緊急場面シミュレーション	今村・井上
11~13	新生児蘇生法	出生時の呼吸・循環の解剖生理 新生児蘇生のアルゴリズム 蘇生の基本技術演習、シナリオ演習	松田・越野
14	ハイリスク新生児のケア	ハイリスク新生児と家族のケア	枝川千鶴子
15		【技術演習】ハイリスク新生児の日常ケアの実際	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク事例演習課題 ①②③ 各20% (60%)：井上・伊藤 (第4～7回) ・スタンダードプランの作成 (20%)：山本 (第8～9回) ・事前学習小テスト (10%)，演習への取り組み (10%)：今村 (11～13回) 		
教科書	1. 遠藤敏子「ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア」(日本看護協会出版) 2. 田村正徳(監修)「日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト」(MEDICALVIEW社) ※11-13回で使用 3. 横尾京子「助産学講座8 助産診断・技術学II [3]新生児期・乳幼児期」(医学書院) ※14-15回で使用		
参考図書等	授業の中で提示する。		
備考	本科目の課題や記録等は、全て「助産学実習Ⅱ：ハイリスク実習」での活用が可能である。		